

平成30年度
新潟大学歯学部同窓会学術講演会のご案内

慢性疼痛に効く新しい鎮痛剤
プレガバリンの知識

新潟大学大学院医歯学総合研究科歯科薬理学分野教授
佐伯 万騎男 先生

平成 7年3月 大阪大学歯学部卒業
平成 7年4月 大阪大学歯学部歯科薬物学教室助手
平成13年4月 文部科学省在外研究員としてテキサス大学医学部Murad研に留学
平成18年8月 大阪大学大学院歯学研究科歯科薬物学教室講師
平成26年2月 新潟大学歯学部歯科薬理学分野教授



日時 平成30年4月22日(日) 10:40~12:10

会場 新潟第一ホテル

新潟市中央区花園1丁目3番12号

(JR新潟駅・東口(万代口)から右へ徒歩1分)

参加費:無料 事前申し込みは必要ありません。

歯の痛みは侵害性疼痛に分類され、歯科における最も一般的な疾患であるが、口腔顔面領域の痛みは多様であり、いわゆる神経障害性疼痛に分類される痛みにまで範囲を広げると、学部教育も十分には行われていないのが現状である。

多くの慢性疼痛に悩む患者がおられるなか、国内ではひとつには知識の不足から、鎮痛剤の利用に抵抗を示す傾向が強かった。だが痛みを抱えながらの社会生活継続が困難なことが理解され、また国の後押しも手伝って、患者が医療機関で鎮痛剤の処方を受けるケースが増加している。神経障害性疼痛は侵害受容器が刺激されていない状況で痛みが発生するため、非ステロイド性抗炎症薬の効果が期待できない。

2017年6月、以前から神経障害性疼痛に適応のあったプレガバリンに、口腔内崩壊錠剤(商品名リカOD錠25mg、同OD錠75mg、同OD錠150mg)が発売された。成人に対し初期用量1日150mgを2回に分けて投与し、その後1日用量300mgまで漸増する。1日最高用量は神経障害性疼痛で600mgとなっている。この場合も、1日2回に分けて投与する。新たに発売されたプレガバリンの口腔内崩壊錠は、高齢化に伴って急増している高齢者の疼痛患者の利便性向上を目指して開発された製剤であり、特に嚥下機能が低下した患者などで有用性が高いと考えられる。また、既存のカプセル製剤との生物学的同等性も確認されている。

プレガバリンは世界中から出されている神経障害性疼痛の薬物療法ガイドラインの多くで Amitriptyline (トリプタノール他)、Duloxetine (サインバルタ) などと共に第1選択薬に位置付けられている。カルシウムイオンチャネルの $\alpha 2 \delta$ サブユニットに結合し、神経障害後に生じる延髄後角レベルでの神経伝達物質(グルタミン酸等)の一過性放出増大を抑えることで、過剰に興奮した神経系を沈静化して鎮痛作用を発揮すると考えられている。

副作用として、めまい(20%)、傾眠(20%)があり、「転倒」「転倒による骨折」「自動車事故」に至った例が報告されていることから、転倒や転倒による骨折への注意に加え、自動車の運転等危険を伴う機械の操作を行わないよう指導することが求められている。プレガバリンの薬物動態学的特性を理解し、適切な投薬処置を行うことが大切である。

お問い合わせ先 新潟大学歯学部同窓会学術部 gakujutsu@dent.niigata-u.ac.jp